



江名眞福寺に施餓鬼執行

木戸驛自動車遭難一周忌

當時の盡力者に小濱氏の心盡

昨年七月十二日相馬野馬追自動車主小濱長太郎氏主催會長は先輩木田啓松氏が
見物の爲め、江名町探ぼうの下に七月十一日(今日)午推薦された
組合主催で二十余名が小名前十時より江名町眞福寺に
預りすまや自動車部の大バ於て大施餓鬼を執行するが
スを貸切つて途中木戸驛遭難時の際力者の参加も乞ふ
外に差掛つた際急行列車にて終つてより沖見屋に於て
衝突し十余名の死者を出し御誠心にとり時を語り亡者
た、其一周忌に相當るのでの冥福を祈る筈である

佐々木上等兵の遺骨

歸町せず北海道に凱旋

小名濱町下町出身佐々木徳子は高木助俊参列し遺骨を
太郎上等兵の遺骨は去る九預り小名はま町には歸らず
日原隊に無言の凱旋合同慰親元たる北海道に父親に抱
靈祭執行の爲め小名濱町よかれ無言の凱旋した

小名濱齒科醫會

結成發會式

會長 木田啓松氏

小名濱齒科醫師よりなる齒招待して「齒科醫會は仲よ
科醫會は先月二十日發會式を執り「特定關託醫を受けず全醫
本日(十一日)その結成發會式があつた」際會の意
式を料亭はまやに於て開催志を表明する筈でとう日は
するが特に水産工業幹部を和かな盛宴を催される因に
本田草氏は明十二日親會社

草野村葬

徐州會葬の華と散つた草野

村泉崎出身一等兵渡邊君
の草野村葬は十五日午後一
時から同村小學校で執行さ
れた

神谷村葬

神谷村上片寄出身上等兵齋藤

長次君の遺骨は十日午
六時十分草野野驛着で無言の
凱旋、十六日午後一時から
小學校で村葬が行はれる

小名濱魚糧

本田氏轉勤

小名濱魚糧株式會社担当者
本田草氏は明十二日親會社

發行所 常磐新聞社
編輯人 伊藤隆次
印刷所 常磐新聞社
日刊 日曜日を除く
一部二錢 一ヶ月 三十錢
廣告料 一行 五十錢

物騒なる棒
ダイ、雷管等を盗む
好間村北好間權現堂元開田
川炭礦坑夫木下春吉こと、
稲木春(二)は今回同職の
休山により解雇されたが行
きかけの駄賃として同職に
倉庫からダイナマイト一本
導火線二尺八寸雷管一本を
盗んだ

縣消防協會

評議員 後任決る

本郡下五市場の二才駒籠は
三月三十日の中寺を皮切り
に七月九日の下小川市を最
終として終了したが出場頭
数は七百五十頭でこの總價
格十一萬四千六百七十五圓
に達した。前年に比べると
頭数は百一頭を減じてある
が價格は於て四萬九千三百
四十四圓を増し非常時局を反
映してある一頭の平均價格
は本年は百五十三圓五十一
錢となり昨年の七十七圓六
錢に比較し七十六圓四十五
錢の高騰を示した、五市場
の出場頭数及び買上高は次
の通り

東日本 海洋調査協議會

今年北海道札幌に開催

小名濱町よりも關係者出席
昨年小名濱町で開催した東の不順な天候に禍され一部
日本太平洋海洋調査協議會には早くも稻熱病が発生し
は本年の輪番は北海道札幌若し昨今の如き天候が持續
に相當し七月四日より六日する時は稲草の生育上實にの
任、小磯觀測所長等が出席
した。海洋調査の上より明
年度よりは東京神奈川静岡
の三縣も参加する事になつ
た、臨席者の權威として東
はく大學、海軍水路部中央
氣象臺等よりも臨席した

凱歌は日立チームへ

關東北軟式庭球大會

きのふ聲中コートで
磐城軟式協會主催第七回東の
前九時から平市聲中コート
で開催、仙鉄、東はく學院
をはじめ地元からは聲中、
平南、磐城入山、古河等五
十六チーム参加し熱戦の結
果日立内藤内チームに凱
歌あがった、準決勝以下次

内藤(立日)	4-1	中島(立日)	2-0
内藤(立日)	4-1	平野(立日)	2-0
内藤(立日)	4-1	大谷(立日)	2-0
内藤(立日)	4-1	小川(立日)	2-0
内藤(立日)	4-1	中島(立日)	2-0

郡下の駒籠をばる
出場頭数を減じて
平均價格は約十割高
中寺二八頭(三、四三
六圓)上遠野二〇三(三三
九三三)黒田一四七(一六
一六九)桶賀(一三〇三六
二九三)上小川二九(六、
八九八)計七四七(一四
六七五)

湯本町長決定

石川湯本町長の死亡による

後任町長は湯本の町會で助
手として選出された湯本町
長石川湯本町長の死亡によ
り、湯本町長は湯本の町會
で助手として選出された湯
本町長石川湯本町長の死亡
による

謹告

一般印刷物の御用命を切に御願ひ申

弊印刷所は技術優秀なる熟練職工數
名が腕の喰りを鎮めて各位の御用命
を待ちわびて居ります。
常磐新聞同様御引立を願ひます。

常磐新聞社

常磐印刷所

小名濱電話呼一三九
平支局電話 七四八

注意書

稲作管理上の
縣から各農家へ
歌あがった、準決勝以下次



巷の聲

を世間に洒け出す亡者もあか行とざいたのか足踏の金儲けが自分の生命の如状態にあるらしい、聞けば考へて使ふ事の知らない路線の土地買収も深村方部不幸な奴は何程溜れば満足は大休養解が出来残る問題するの自らも判つてゐない日本水産前より本町魚市場の一角より、そんな奴は吾子から場所の路線を町の一角より町管にせよ、との議論も出て會社當局としては骨抜きと心陰ならざるものがあり徹回の舉に出るなどそんな處に進行係の停止状態となり嵐の前の静さを見せてゐるのではないかと見られてゐる、この實情を探知した魚市場利用関係者は泉小名濱間の鐵道より水素工業以外を除かれはと早くも町役場軌道道社等へ是非魚市場延長方さくを請じてもらいたいと陳情するなど、そこには相當の複雑性が窺まれて將に政治問題化せんとする内証もあるかにそく聞するに至つた、(以下次號へ)

三崎組太田氏の偉味。小名濱土木請負業三崎組太田勝康氏の存在は吾人に立派であれ正義であれ正直であれと雄辯以上の無言のうちに、あの暗とうが、何時の間に暗雲低迷が一掃され、商港着工當時小名濱に來て間にか小名濱町に齒科醫會が組織して木田齒科氏を會長に鈴木齒科氏との間柄は、難時代黙々として不平不満も洩さず林の如く隠かに、明瞭化するのである、御互に肩を並べ總ての中心を、互に今日の結成發會式と、つたのである、尤も犬の喧嘩でも、やる丈けやれば御互に唇を開き馬かしく、なるから打開方法を取る、をんな意味で木田、鈴木兩氏は吾人等何かの良き暗示を與へて呉れた、兩降つて地面をか、マア同業者だ仲好くねー俺達も助かるからぬ。

精神病的病者を憐む。富が相當所有して居り死生の間に彷徨する大病でも名醫を招き又は入院する金を欲くして死を遺ふ大馬かも世には澤山ある、それを稱して精神的病者と名づけ、名譽職を得る事に吸々として術々を講じ自分の馬かせて

荒物雜貨店 文屋 電話一三九
○文屋自慢の御みやげ品煙草幸

電話七四八番
本社平支局(平市新川町二)に電話が通じました。御利用の程を願上ぐます。

常磐新聞社

視常磐印刷所新設

日本水素工業株式會社工場長
磐城海岸軌道株式會社取締役
藤村利常

日本水産株式會社
小名濱冷凍工場長
秋山金作

平製氷株式會社
專務取締役
松本一郎

磐城水産工業株式會社
專務取締役
福尾伊太郎

經理課長
近藤安雄

二本松電氣株式會社
小名濱支店長
初川茂藏

丸八鐵工場
小名濱町〇港入口
電話一七五番

皮膚泌尿科專門
性病科

江尻醫院
平市田町(電話六九二)
醫學博士 江尻伊三郎

平病院
院長 醫學博士 鈴木定藏
副院長 鈴木定藏
內科 部長 鈴木定藏
外科 部長 鈴木定藏
小兒科 部長 鈴木定藏
一般外科 部長 鈴木定藏
皮膚泌尿科 部長 鈴木定藏
物理療法科 部長 鈴木定藏
藥劑科 部長 鈴木定藏
診療時間 每日午前八時より午後九時まで夜間診療に從事す(急患は此の限にあらす)